

天秤式針圧計「SHURE SFG-2」の正しい使い方

電子式の針圧計が信頼性の点でも精度の点でも良いとされていますが、古典的な天秤式の針圧計もなかなかのものです。

この「SFG-2」という針圧計をうまく使えば、実用上全く問題の無い針圧測定が可能です。

電子式針圧計と違い、この針圧計はカートリッジのマグネットの影響を受けません。

ただしその為には次の点を確認してみてください：

- 1 お使いのターンテーブルシートの厚み（通常は3.5 mm前後）、レコード盤の厚み（通常は2 mm前後）。
- 2 「SFG-2」の天秤が水平になった状態で、SFG-2 の設置面から針圧測定溝までの高さ。おそらく5 mm程度でしょう。

つまり、ターンテーブルシートの厚さが3 mmでレコード盤の厚みが2 mmなら「SFG-2」はレコード盤に針を落としている状態で針圧を測定していることになります。

もし、ターンテーブルシートの厚みとレコード盤の厚みの合計値が5 mmでない場合には何らかの調整手段を工夫しましょう。例えば「SFG-2」の下にスペーサーを入れてみるとかの方法です。

それだけでは手に負えない場合、ターンテーブルシートの交換も検討されたらよいと思います。

以上

付記：

「SFG-2」の天秤には目盛りに対して「×1」「×2」測定を行うために針先を載せる溝があります。しかしこのままでは針圧3 gまでの測定しか出来ません。

「×2」測定のための溝から天秤の支点側へ8 mmのところを引けば、これが「×3」測定のために針先を載せる位置となります。4.5 gまでの針圧測定が可能になります。